



社報民きわい 己克輝千 除を日曜月但 刊日 十三部一 日・月・年

釜屋商店 平市五丁目

### 省営自動車實現へ

#### 先づトラック二十臺が配車

#### さきよう湯本町で関係者懇談

### 湯本石川間

湯本町から上遠野関係有力者、沿線町村長等の参り、湯本町役場に懇談會を組織して協賛の結核、向現組合は二月末日限り廢止となり三月一日からは協同組合と生れかざるものである。

### 郷土藝術コンクール

#### 同胞援護會が本社と市後援で

#### 來十九日の晝夜二回民衆劇場に

### 募集啓

同胞援護會平市支會では市役所及び本社の後援で海外引揚者、戦災者その他生活困窮者に対する援護資金を募集する。

### 各種加工工場も新設

#### 苦難に挑む田人村の歸農者

郡内田人村に入植した東京第難の路を突破するため製粉、製一次歸農開拓團九十名、百八種、精米等の加工工場も新設十余名は若男女一丸となつてすることに決定、この副産物で僅か五十名歩の耕地にかり收をはかり純益で資金を造成、つき將來の自作農化を樂しみに歸農開拓團の氣概をかくことに一日の休もなく敢闘を續けてなり各方面から期待をかけられ來たが、期待された秋の收穫は汗の結晶として一物も得なかつたので歸農者たちも一時は悄然としたが、土に生きようと決然起つて土にいとみ來年こそは大増收を誓つてゐる、さらに若平地区統制組合では協同組合法

### 各部會毎に 發起人推薦

協同組合の結核

### 町村長等招き 更正協議

#### 引揚者更生三ヶ年計畫實施につ

引揚者更生三ヶ年計畫實施につ

### 木炭難深刻化

#### 供出僅かに割當の五割のみ

地方事務所林産課では總力をあけて木炭の増産供出に拍車をかけてゐるが、資材難や搬出難等々の悪條件の山積に、供出は振はず當年未だ漸く割當の三十四万三千貫に對し十五萬二千八百八十貫といふ僅か五割に達したのみである、たゞ好間村ひとり百貫に對して八千貫からの供出をみたのは、炭礦の供出をみた關係とある、現在までの各町村の供出成績は左の通り括弧内は割當數量單位貫

### 募 集

#### 女事務員 若干名

平土地住宅會

### 山に冬眠

#### 地方事務所強力に 掃蕩運動に乗り出す

一方資材難及び雪害等による撤出難から山元に冬眠をむきける木炭は生産地田人村の二萬一千貫を筆頭に

### 活況呈す江名濱

#### 連日百二十隻内外水揚げ

水産石城の王座を占める江名濱、約三割は宮城方面からの回船中の作兩港では昨今連日百三十隻内外が水揚げ、一隻平均千三百貫程度の水揚げを示し、毎朝夕、アカチ、マコ等の魚の山築を異常な活況を呈してゐる、これに伴つて蒲鉾加工工場も俄然活況を加へ、文字通り水産王國の威力を發揮してゐる、なおこの出漁船中七割は地元船に依る搬出難を、請負の三輪建

### 上棟式か

第一校工事進む

市の第一國民學校の建築は既に基礎工事を了し、資材難と雪害に依る搬出難を、請負の三輪建

### 黄金狂時代

#### 内郷第二イワキ

が、現在の状況で進めば豫定通り通くも二月中旬までには上棟式の運びとなり得るものとみられ、市でも吏員を動員請負者側に協力、この予定を違ふなと張り込んでゐる。

### いわざ守言

湯本石川間の省營バス問題いよいよ實現化に進展、恵まれぬ山間部の文化、産業の開發に端

### 郷土藝術コンクール

日時と場所 一月十九日(日)民衆劇場 晝二時 目的 海外引揚者、戦災者等其生活困窮者に対する援護資金造成並に郷土藝術の啓蒙

賞金 同胞援護會五百圓(一名) 一等三百圓(一名)二等二百圓(一名)三等百圓(一名) 四等五十圓(十名) 會員券 前買八圓、當買十圓

主催 恩賜財團同郷援護會福島縣支 後援 平市支會 平市役所 平市民報 社

### 警中出身者に告ぐ

同窓生諸兄の最近の動靜を左記に通知ありたし 平市福屋町福屋無盡金庫内(電話一三三番) 警中同窓會名簿編纂委員會 委員長 山森 正一

